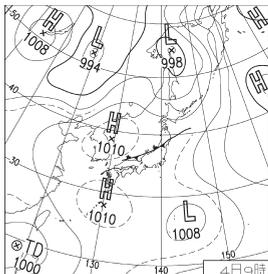


日々の天気図

— No. 79

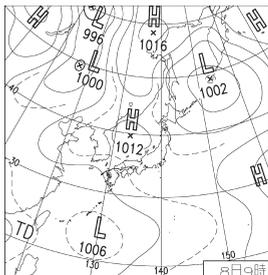
2008年8月

- ・14日～15日、熱帯低気圧の通過により、山形県で記録的大雨。庄内町狩川419 mm/24 h など。
- ・26日～31日、前線と低気圧の影響で各地で局地的大雨。この間の降水量は愛知県岡崎市447.5 mm など。気象庁は平成20年8月末豪雨と命名。(気象庁予報部予報課)



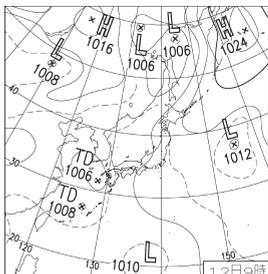
4日(月)前線停滞

日本海沿岸に前線が停滞。前線の南側の関東以西は、暖かく湿った空気が入り、日本海側や山沿いを中心に雨や雷雨。夜は関東平野部も雷を伴った激しい雨。



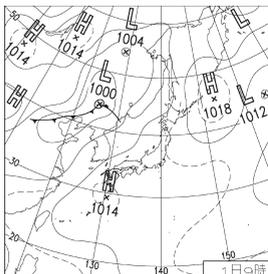
8日(金)都心も猛暑日

西日本～南西諸島は南海上の低圧部周辺の湿って暖かい空気の影響で激しい雨や雷雨。東・北日本は概ね晴れ。各地気温上がり、東京都心でも35.3℃の猛暑日。北京で五輪開幕。



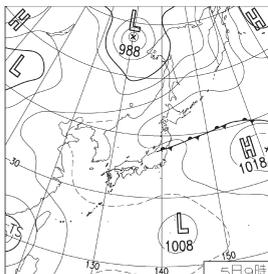
12日(火)熱低九州西海上を北上

南から湿った空気の流入続き、九州～四国は雨。本州は高気圧に覆われ晴れの所が多いが、強い日射の影響で午後は所々で雨。関東～東北の太平洋岸は、湿った海風で曇多い。



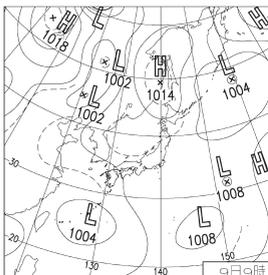
1日(金)雷雲による雨

前線を伴った低気圧の接近で北日本は曇りや雨。西日本から東日本にかけては広く高気圧に覆われるが所々で雷雲が発達。静岡県浜松市天竜で69.5 mm/1 h の非常に激しい雨を観測。



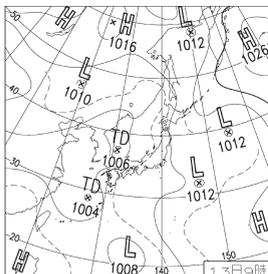
5日(火)太平洋側で強雨

東北部から九州の太平洋側で大気の状態が不安定となりわか雨。特に関東甲信地方では短時間強雨。その他は高気圧に覆われ、晴れて気温上昇。南シナ海で台風第9号発生。



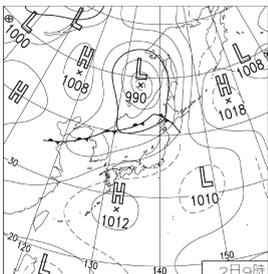
9日(土)甲府 12ミリのひょう

南西諸島や九州南部は沖縄付近の低圧部の影響で、九州北部～関東甲信は上空の冷たい空気の影響で、それぞれ曇りや雨となり所々で雷。北日本～北陸は高気圧に覆われ概ね晴れ。



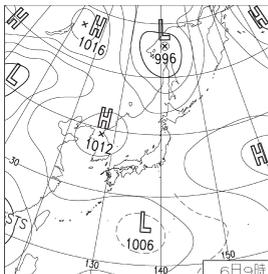
13日(水)熱帯低気圧 日本海へ

東北以南は気圧の尾根で、概ね晴れて猛暑日や真夏日、兵庫県豊岡市豊岡で37.4℃。九州～関東は南から湿った空気の流入続き、南西諸島は熱帯低気圧の影響で、所々で雷雨。



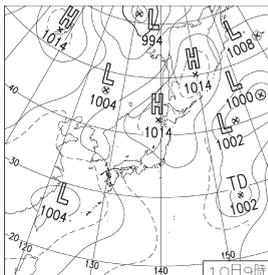
2日(土)北海道で大雨

関東以西は太平洋高気圧に覆われ概ね晴れるが、北日本は前線や低気圧の影響で曇りや雨。北海道浦河町中杵白で134.5 mm/日、静岡県浜松市も朝に64.5 mm/1 h の非常に激しい雨。



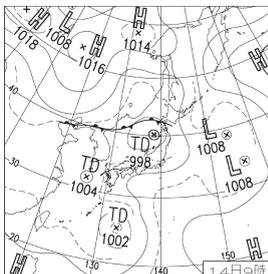
6日(水)朝夕に激しい雨

大気の状態不安定。関東北部は明け方まで激しい雨。全国的に晴れの所が多いが、午後から甲信～西日本で雷雨。岐阜県揖斐川町で73.5 mm/1 h、大阪府枚方市で71.5 mm/1 h。



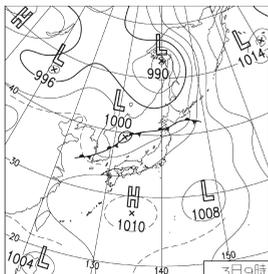
10日(日)台風第10号発生

移動性高気圧が北海道付近を通過。関東～東北地方の太平洋側では北東風によって曇り。一方、西日本を中心に猛暑日が続いた。夜の初めごろ、東京都練馬で非常に激しい雨。



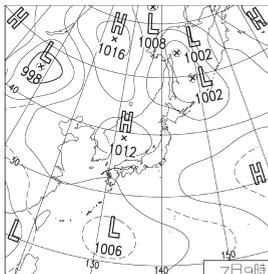
14日(木)山形県で猛烈な雨

日本海に前線が停滞。前線の南には熱帯低気圧が湿った空気を持ち込んだため、山形県庄内町狩川318 mm/日など記録的な大雨となった。他の地方も大気不安定で所々猛烈な雨。



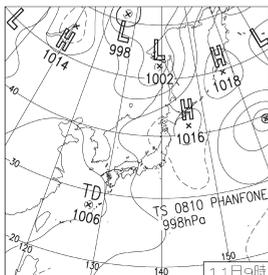
3日(日)東北も暑い一日

日本海には前線を伴った低気圧があって東進。北海道は曇りや雨で、太平洋側で大雨。太平洋高気圧に覆われた本州は概ね晴れて暑くなった。兵庫県豊岡市の最高気温38.4℃。



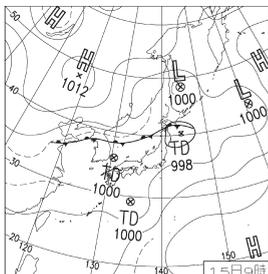
7日(木)真夏の暑さの「立秋」

南海上の低圧部に沿って湿った空気が西日本に流入、紀伊半島～九州南部で激しい雨や雷雨。北日本～東日本は概ね晴れて気温上昇。群馬県館林市で37.6℃。福島市で37.2℃。



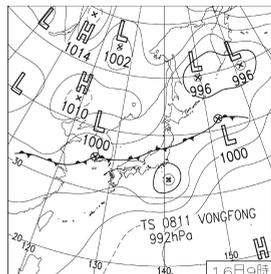
11日(月)沖縄近海で熱低発生

日本列島は広く高気圧に覆われて暑い一日となり、福岡市で最高気温37.5℃を記録。九州から南西諸島にかけては南から湿った空気が流入し、所々で雷を伴った激しい雨。

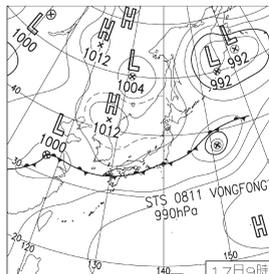


15日(金)台風第11号発生

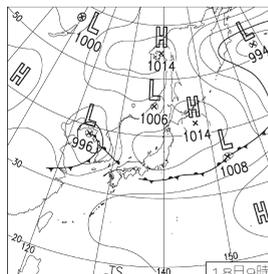
熱帯低気圧が東北地方を通過し、山形県庄内町狩川で前日からの降水で429 mm/24 h となって記録更新。日本の南海上で台風第11号が発生。北緯30°付近を発達しながら東北東進。



16日(土)台風八丈島の南を通過
本州付近に前線が停滞して各地で雨や雷雨。大気の状態が不安定となり、千葉市沖の東京湾では竜巻が発生。八丈島の南を午前中に台風第11号が通過。

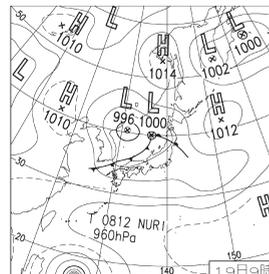


17日(日)関東～東北 肌寒い日中
本州上の前線は南海上に南下するが、九州付近は前線が停滞し大雨が続く。関東～東北は東寄りの冷たい海風が流入、最高気温は9月中旬～10月上旬並。

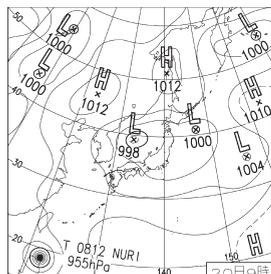


18日(月)台風第12号発生

前線は本州の南に南下、北海道から近畿・四国まで高気圧に覆われ、関東北部と東北部の太平洋側で曇った他は概ね晴れ。夕方から関東、東北は曇りが広がる。九州では所々雨。

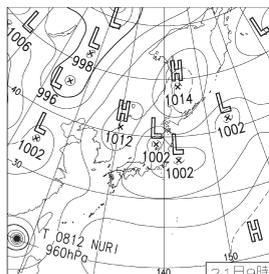


19日(火)白馬岳大雪 土砂崩落
日本海沿岸の寒冷前線が本州付近を東進。本州の太平洋側で初め晴れた他は、各地で曇りや雨または雷雨。熊本県八代市75.5 mm/1h など非常に激しい雨の所も。

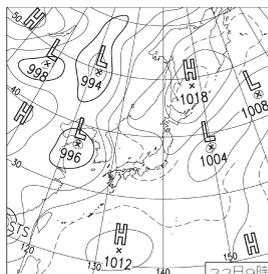


20日(水)北日本では雨

低気圧が日本海と三陸沖にあり、日本付近は大きな気圧の谷となっており、北海道～東北北部は雨。その他の地方は晴れたが、大気が不安定となりわか雨の所も。

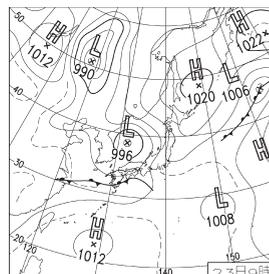


21日(木)広範囲で大気不安定
上空に寒気を伴った低気圧が東北南部を通過し、広い範囲で大気不安定による雷雨。福島県の相馬市では42.5 mm/1hの激しい雨。関東では落雷による人や建物への被害が多発。



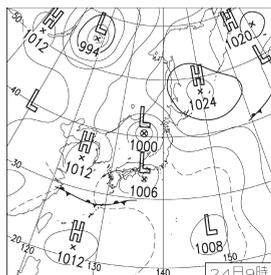
22日(金)稚内市で記録的低温

オホーツク海高気圧が北日本～関東を覆い、北海道と東海～近畿は概ね晴れたが、関東地方は北高型で曇り。北海道稚内市沼川では最低気温が1.5℃となり、8月の記録更新。



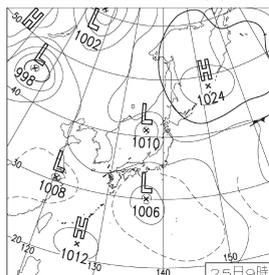
23日(土)所々で激しい雨

日本海に低気圧、西日本に前線が停滞。オホーツク海の高気圧が北日本を覆う。北海道は一部で晴れ。その他は大気不安定で所々雨。三重県大紀町藤坂峠で84.5 mm/1hの猛烈な雨。

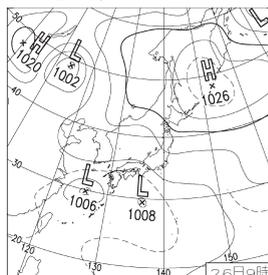


24日(日)東海道新幹線に乱れ

日本海の寒冷低気圧、南海上の前線や低気圧の影響で北～東日本は太平洋側を中心に曇りや雨。三重県鳥羽市55 mm/1h など非常に激しい雨の所も。西日本～南西諸島は概ね晴れ。

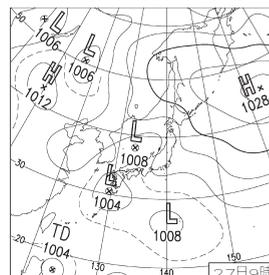


25日(月)東～北日本では雨続く
日本の南海上から湿った気流が入り、東日本～東北の太平洋側で雨だが、九州～四国を中心に晴れ。沖縄県国頭村奥では、明け方64 mm/1hの非常に激しい雨。



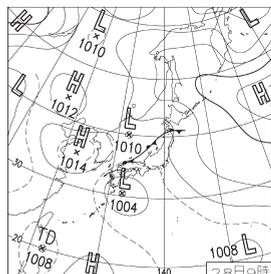
26日(火)動きの遅い低気圧

本州の南海上にある動きの遅い低気圧と東シナ海を東進する低気圧の影響で、南西諸島と北海道の一部を除き曇りや雨。小笠原諸島では雷雲の動きが遅くほぼ終日雷雨。



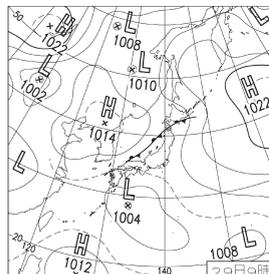
27日(水)西日本、北海道で雨

低気圧は九州南岸へ、南からの湿った気流の影響で四国、中国、九州は激しい雨。鹿児島県肝付町甬与志岳で64.5 mm/1h、徳島県美波町日和佐で62 mm/1h。東北～関東は日中晴れ。



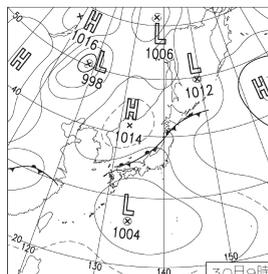
28日(木)北陸～関東で大雨

日本海沿岸の前線に向かって湿潤な空気が流入し、西日本～関東の広い範囲で大気不安定による大雨。愛知県一宮市120 mm/1h等、北陸～関東6地点で観測史上1位の記録更新。



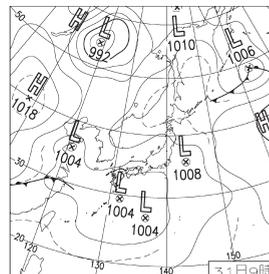
29日(金)各地で局地的大雨

日本海沿岸の前線や日本の南海上の低気圧の影響で暖かく湿った空気が流れ込み、北～西日本の広い範囲で局地的大雨。愛知県岡崎市146.5 mm/1h など猛烈な雨の所も。



30日(土)局地的大雨続く

西日本～北日本に前線が停滞。南から湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定。各地で雷を伴い猛烈な雨。千葉県我孫子市で観測史上1位となる105 mm/1hを記録。



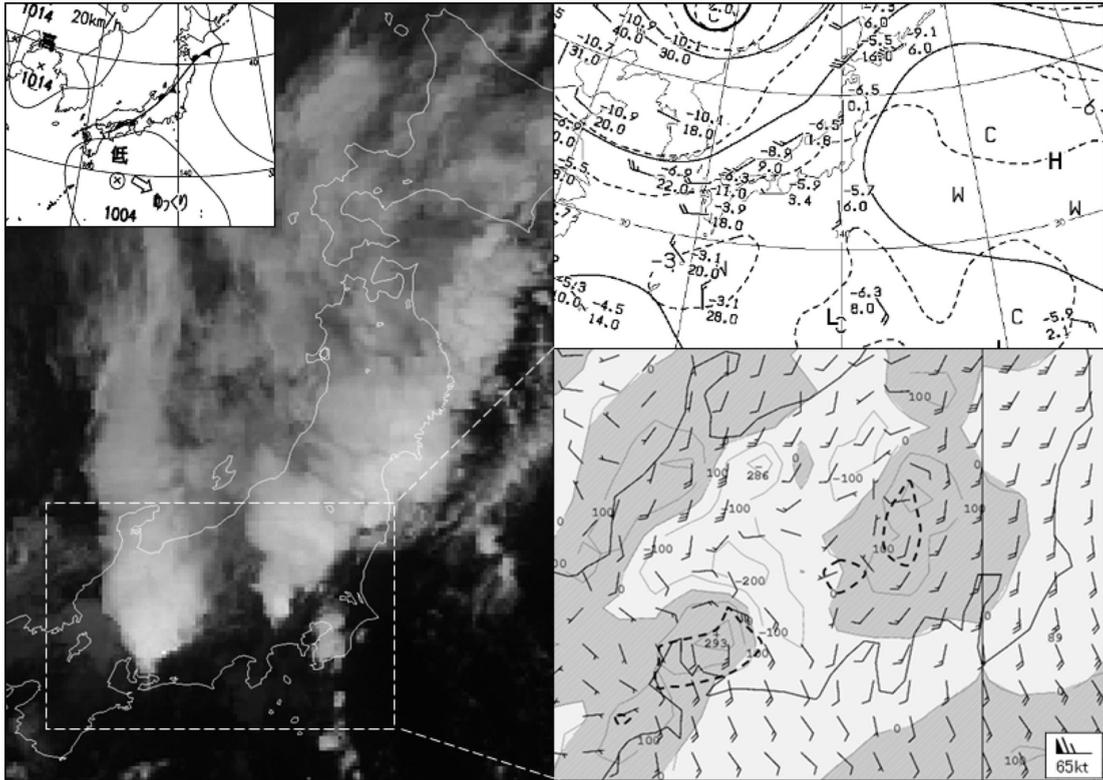
31日(日)激しい雨は一段落

本州付近にあった停滞前線は次第に活動が弱まり、強い雨は関東から東北に移った。三日間連続していた各地の100 mm以上/1hの雨はなくなりホッとひと息。



今月のひまわり画像—2008年8月

平成20年8月末豪雨



左図は29日3時の地上天気図と29日2時の赤外画像、右図の上段は28日21時の500 hPa 高層天気図、右図の下段は赤外画像の破線内の29日2時の毎時大気解析による850 hPa の風、渦度（数字は渦度で単位は $10^{-6}/\text{sec}$ 、灰色は正渦度の領域）及び同時刻のMSM（初期値29日0時）の344 K の等相当温位線（破線）

8月の北日本から西日本は、局地的に雷を伴う大雨が頻発した。中でも26～31日は、本州付近に停滞した前線に対し日本の南海上から非常に湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となって東北、関東、東海及び中国地方等で記録的な大雨となった。この期間の最大1時間降水量は、29日1～2時に愛知県岡崎市岡崎のアメダスが観測した146.5 mmで、気象官署及びアメダスでは観測史上7位の記録となった。

29日2時の赤外画像を見ると、愛知県付近、東京都多摩地方及び福島県には、白く輝いた積乱雲の塊が鮮明に映っている。同時刻の毎時大気解析の850 hPa の風、渦度から、愛知県と埼玉県西部から東京都多摩地

方には低気圧性の循環があり、愛知県は20～30 kt（1 kt=0.51 m/s）の南寄りの風が吹いている。同時刻のMSMでは344 K以上の高相当温位域が埼玉県西部から山梨県、愛知県付近にあり、活発な積乱雲は強い正渦度と高相当温位が重なった領域で発生しており、山梨・長野県付近は発散場で積乱雲がほとんどない。

この大雨による水害で、愛知県岡崎市では29日に2名が亡くなり、各地で浸水や土砂災害、落雷による停電等が発生し、鉄道等の交通機関にも大きな影響を及ぼした。気象庁は、この期間の大雨を「平成20年8月末豪雨」と命名した。

（気象庁総務部航空気象管理官付 原 基）